

消化器・肝臓センター NEW-す

NO. 68

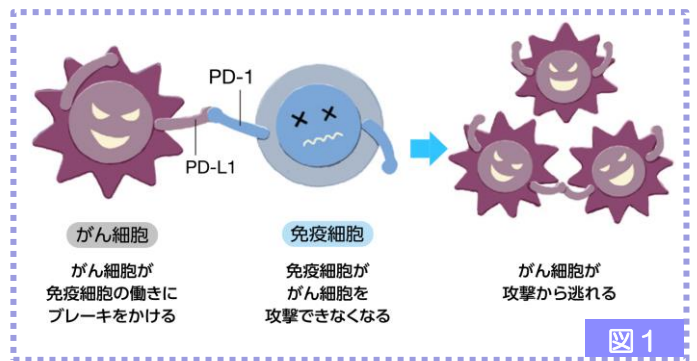
2021.2

切除不能肝細胞癌の新たな治療戦略 テセントリク+アバスチン併用療法

近年従来の手術、放射線療法、薬物治療に加えて、患者さん自身の免疫力を利用し、癌を治療する癌免疫療法が話題です。今回紹介する併用療法の中でテセントリクは癌免疫療法に使われる薬剤の中でも抗PD-1抗体と呼ばれます。

抗PD-1抗体

がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかける仕組みとして、がん細胞の表面にPD-L1という物質を出します。このPD-L1が、がん細胞を攻撃する免疫細胞の表面にあるPD-1という物質に結合すると、免疫細胞はがん細胞に攻撃できなくなります。（図1）



テセントリクは、がん細胞の表面に出たPD-L1に結合することで、免疫細胞の働きにブレーキがかからないようにし、がん細胞を攻撃することができるようになります。（図2）



上記のテセントリクに加えてアバスチンというがん栄養や酸素を運んでいる血管を退縮したり、新たな血管ができないようにする薬剤と併用し、がんの成長を防ぐ治療となります。

当院では2020年12月から治療可能となりました。新しい薬剤であり、様々な副作用の報告もある薬剤ではありますが、肝細胞癌の新たな治療薬として期待されています。がん以外の肝臓のことでもお困りのことがあれば、当院ご紹介よろしくお願ひ申し上げます。

消化器内科 副部長
青井 健司

市立貝塚病院
TEL: 072-422-5865

